

森のちやれんがニュース

2015 秋

北海道博物館
HOKKAIDO MUSEUM

Newsletter vol.1
北海道博物館オープン



森のちやれんが発進！

2015（平成27）年4月18日（土）、北海道博物館（愛称；森のちやれんが）がオープンしました。早朝からファン約200名とマスコミ各社が駆け付け、玄関前に行列ができるほどのにぎわいです。午前9時半開館の10秒前からカウントダウンがはじまり、オープンとともに、みなが一斉に入場しました。グランドホールは、たくさんの人びとであふれかえています（上記写真）。

入館者第1号は、厚別区に住む札幌白石高校1年の松本祐介さん（15）。北海道開拓の歴史に興味のある松本さんは、前進の開拓記念館のころからたび

たび訪れていたそうです。

北海道博物館は、北海道開拓記念館と道立アイヌ民族文化研究センターが統合して一つになり、総合博物館として生まれ変わった施設です。統合にあわせ、老朽化した施設を大規模に改修し、展示を全面改訂しました。

オープン初日で1,891人、翌日の日曜日で2,722人の方にご来館いただきました。オープン前は「どのくらいの人に来てくれるのだろうか？」と不安な気持ちでいっぱいでしたが、予想以上の方にご来館いただき、職員一同ホッと胸をなでおろしました。



CONTENTS

- ② おかげさまで5万人達成、もうすぐ10万人！
- ③ 「北海道博物館 赤れんがサテライト」 オープン
- ④ 北海道博物館の組織と職員
- ⑥ アイヌ民族文化研究センター
- ⑦ 「はっけん広場」へようこそ
- ⑧ 行事のおしらせ／活動ダイアリー

トピックス

おかげさまで5万人達成、もうすぐ10万人！

当館は2015（平成27）年4月に北海道開拓記念館（1971年開館）と道立アイヌ民族文化研究センター（1994年開所）を統合して新たに発足しました。4月17日（金）に開館記念式典を挙行之、そして4月18日（土）から総合展示の一般公開を行っています。

幸い、4月26日（日）には早くも入館者1万人を達成し、6月20日（土）に5万人目のお客さまをお迎えいたしました。当館にはお子さま連れのファミリーが多数ご来館いただいておりますが、5万人目のお客さまも4人ファミリーの皆さまでした。

その後、8月16日（日）に入館者8万人を達成し、9月中に入館者10万人を達成できそうであります。旧開拓記念館の末期には年間入館者数が4万～5万人でしたので、「北海道博物館」として生まれ変わってから数多くの皆さま方にご来館いただき、館員一同が有り難く感じております。

9月5日（土）から特別展「夷酋列像」展がスタートいたします。「夷酋列像」展は北海道博物館の最初の特別展として国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館と共同企画したものです。松前藩家老で画人の蠣崎波響が描いた「夷酋列像」の自筆本（フランスのブザンソン美術考古博物館所蔵）と、その後に描かれた模写本などの展示を通して、18、19世紀の蝦夷地と中国、ロシア

を含めた北東アジアのつながりや、当時のアイヌ民族と和人との関係などを多角的な視点で明らかにします。

また、11月からは北海道とカナダ・アルバータ州の姉妹提携35周年記念事業として冒険家・写真家の石川直樹氏の魅力的な写真展を開催するとともに、企画テーマ展「北海道のアンモナイトとその魅力」も開催します。さらに、「はっけん広場」の体験プログラムも充実していますし、多彩な講座も用意していますので、北海道博物館にくりかえしお出でいただけますように、館員一同が心待ちいたしております。

石森秀三
（北海道博物館長）



4月18日 オープン直前の様子



4月26日 1万人を達成しました！



6月20日 5万人を達成しました！

開館記念式典

オープン前日の4月17日（金）、記念ホールで開館記念式典が行われました。式典には200名以上の方にご参加いただきました。愛称「森のちやれんが」の考案者・池田侘奈さん（写真左）、ロゴマークを制作した札幌市立大学デザイン学科の学生9名への表彰式など



も行われ、高橋はるみ知事から賞状や記念品が贈呈されました。

式典終了後、総合展示室入口でテー



プカットが行われ、式典出席者への展示通覧解説が行われました。

トピックス

「北海道博物館 赤れんがサテライト」 オープン



札幌の中心部にある北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）は、年間をとおりて国内外より多数の方が訪れる北海道を代表する名所のひとつです。

2015（平成27）年7月25日（土）、この赤れんが庁舎内2階のスペースに、「北海道博物館 赤れんがサテライト」が新たにオープンしました。

この街中のサテライトでは、今年4月18日（土）に開館した北海道博物館の見どころを道民や観光客のみなさまにご紹介するとともに、館へのアクセスや開催イベントに関する情報をわかりやすくお伝えしています。

また、サテライトの前身、「北海道の歴史ギャラリー」として活動していた時期には、旧北海道開拓記念館の常設展示の一部をご紹介し、みなさまに親しまれてまいりましたが、このたび大幅にその役割と機能を変えての再スタートとなっています。特に、北海道の中核的博物館として、北海道博物館のみならず、道内各地の博物館等施設についての情報を広く発信するコーナーが新設され、好評をいただいております。

サテライトの構成として、入口付近には、迫力のある大きな「ニシン釜」やさわることのできるアンモナイトの化石を配置しました。また、モニターによる北海道博物館の紹介映像を放映し、北海道の自然・歴史・文化について、みなさまに想いを馳せていただくコーナーとして機能するよう設計されています。

サテライト空間の中央付近には、新しく誕生した北海道博物館の紹介コーナーを設けました。ここでは、5つのテーマで展開される総合展示について、収蔵資料とパネルポスターで紹介するとともに、サテライトから北海道博物館へのアクセス情報についても、大きな表示でわかりやすく説明しています。

また、周囲には、北海道内の様々な博物館等施設に関する情報コーナーを設けました。ここでは、大地図に各館園の位置情報を表示するとともに、リーフレットなどを取りそろえていますので、道内博物館等施設の情報の多くを一度に手に入れることができます。



化石にさわる

アンモナイトのホンモノの化石にさわるができます。



道内博物館の情報コーナー

北海道には200以上の博物館等施設があります。どんな施設があるのか、大きなマップでさがしてみましょう。



手にとってみよう

各博物館等施設のリーフレットなどが置いてあります。ご自由におとりください。

北海道の博物館めぐりのプロローグとして、ぜひ新しく誕生した「北海道博物館 赤れんがサテライト」をご利用ください。

杉山智昭

（学芸部道民サービスグループ学芸主査）

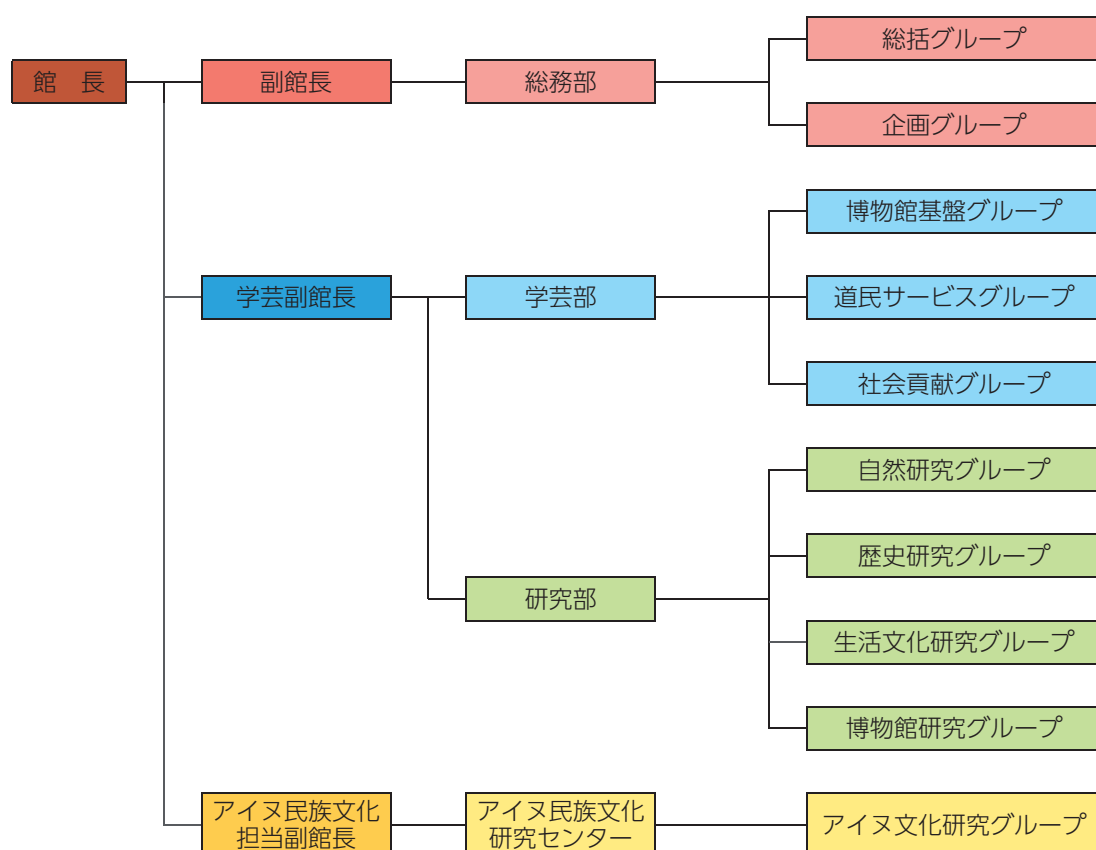
組織

北海道博物館の組織と職員

北海道博物館は、北海道開拓記念館（1971年開館）と道立アイヌ民族文化研究センター（1994年開所）という2つの道立施設が統合され新たに開設された「総合博物館」です。

当館は2つの施設が築き上げてきた伝統や優れた業績を受け継ぎ、発展させつつ、道民と共に歩み、愛される博物館づくりを目指していきます。

あらたな組織体制では館長の下、副館長、学芸副館長、アイヌ民族文化担当副館長が配され、総務部、学芸部、研究部の3部、およびアイヌ民族文化研究センターが設けられています。



総務部は、館務一般の企画及び総合調整、各種計画の策定及び推進、開拓の村、野幌森林公園自然ふれあい交流館、野幌森林公園内の諸施設の管理、野幌森林公園の保護、利用のための規制及び指導、館の庶務、財務その他他部の主管に属しないことに関する業務を取り扱う部門です。

総括グループ 館の庶務、職員の人事・服務・研修・福利厚生、職員の給与・手当、館の予算・経理・決算、庁中管理、公有財産・物品、式典、指定管理、自然公園法、道立自然公園条例など

企画グループ 館業務の総合的企画及び連絡調整、利用者ニーズの把握、自己点検評価、博物館協議会の運営、北海道開拓の村の整備・修繕計画など

学芸部は、資料の収集、整理及び記録保管、展示、調査研究に係る事業、北海道開拓の村の歴史的建造物の管理、教育普及事業、利用者サービス、利用促進に係る広報、博物館交流の促進、情報の発信、研究成果の活用及び社会貢献に関する業務を取り扱う部門です。

博物館基盤グループ 資料、展示及び調査研究に係る業務の企画、調整

道民サービスグループ 教育普及事業、利用者サービス及び広報に係る業務の企画、調整

社会貢献グループ 博物館交流、情報発信及び研究成果の活用に係る業務の企画、調整

職員名簿 (2015年6月1日現在)

館長	石森 秀三
副館長	吉田 公伸
学芸副館長	(欠 員)
アイヌ民族文化担当副館長	中村 亘

総務部

総務部長	北 敏文
総括グループ	
主幹(兼)	北 敏文
主査(総括)	中野 淑行
主査(公園利用)	藤本 剛
主査(調整・施設管理)	今 聡人
主任	西尾 千秋
主事	徳本 彩

企画グループ

学芸主幹	右代 啓視
学芸主査(企画調整)	三浦 泰之
学芸主査(計画・評価)	会田 理人
研究職員	田村 雅史
学芸員	小林 孝二

学芸部

学芸部長	舟山 直治
博物館基盤グループ	
学芸主幹	堀 繁久
学芸主査(資料管理)	山際 秀紀
学芸主査(展示)	鈴木 琢也
学芸主査(調査研究)	山田 伸一
学芸員	添田 雄二
学芸員	春木 晶子
研究職員	遠藤 志保
学芸員	寺林 伸明
学芸員	村上 孝一

道民サービスグループ

学芸主幹	池田 貴夫
学芸主査(教育普及)	東 俊佑
学芸主査(広報・利用促進)	杉山 智昭
研究職員	圓谷 昂史
研究職員	大坂 拓
学芸員	表 溪太
学芸員	出利葉浩司

社会貢献グループ

学芸主幹	水島 未記
研究主査(アイヌ文化)	甲地 利恵
学芸主査(情報・交流)	(欠 員)
研究職員	大谷 洋一
学芸員	青柳かつら
学芸員	栗原 憲一
主任	櫻井万里子

研究部

研究部長(兼)	小川 正人
自然研究グループ	
学芸主幹(兼)	水島 未記
学芸員(兼)	添田 雄二
研究職員(兼)	圓谷 昂史
学芸員(兼)	表 溪太

歴史研究グループ

学芸主幹(兼)	右代 啓視
学芸主査(兼)	山田 伸一
学芸主査(兼)	三浦 泰之
学芸主査(兼)	鈴木 琢也
学芸主査(兼)	東 俊佑
学芸員(兼)	春木 晶子
学芸員(兼)	寺林 伸明

生活文化研究グループ

学芸主幹(兼)	池田 貴夫
学芸主査(兼)	山際 秀紀
学芸主査(兼)	会田 理人
学芸員(兼)	青柳かつら

博物館研究グループ

学芸主幹(兼)	堀 繁久
学芸主査(兼)	杉山 智昭
学芸員(兼)	栗原 憲一
学芸員(兼)	小林 孝二
学芸員(兼)	村上 孝一
主任(兼)	櫻井万里子

アイヌ民族文化研究センター

アイヌ民族文化研究センター長	小川 正人
----------------	-------

アイヌ文化研究グループ

研究主幹(兼)	小川 正人
研究主査(兼)	甲地 利恵
研究職員(兼)	大谷 洋一
研究職員(兼)	田村 雅史
研究職員(兼)	遠藤 志保
研究職員(兼)	大坂 拓
学芸員(兼)	出利葉浩司
研究職員(非常勤)	佐々木利和
研究職員(非常勤)	奥田 統己

解説員

主事(非常勤)	青木 朱美
主事(非常勤)	麻生 典子
主事(非常勤)	斉藤 智子
主事(非常勤)	越田 雅子
主事(非常勤)	埴見 裕子
主事(非常勤)	福島奈緒子
主事(非常勤)	堀 泰子
主事(非常勤)	山田日登美
主事(非常勤)	浅井 雅世
主事(非常勤)	工津 尋美
主事(非常勤)	折館 里佳
主事(非常勤)	今村ゆみ子
主事(非常勤)	辻 幸恵
主事(非常勤)	川村 昌江

研究部は、北海道の自然、歴史、文化等に関する資料の調査研究及び整理、研究成果の普及、研究の支援に関する業務を取り扱う部門です。

自然研究グループ

自然史系分野(地学、生物学)

歴史研究グループ

歴史系分野(考古学、歴史学、美術史学)

生活文化研究グループ

生活文化系分野(産業学、生活学)

博物館研究グループ

博物館学系分野(展示学、博物館教育学、保存科学、資料管理学、図書館学)

アイヌ民族文化研究センターは、アイヌ民族文化に関する資料の調査研究及び整理、研究成果の普及、研究の支援に関する業務を取り扱う部門です。

アイヌ文化研究グループ アイヌ文化系分野(言語、歴史、芸能、民具・伝統的生活技術)

組織

アイヌ民族文化研究センター

アイヌ民族文化研究センターは、北海道博物館の内部組織です。センター長以下7名の学芸員・研究職員がここに属しています。

北海道立アイヌ民族文化研究センター

アイヌ民族文化研究センターのもとなっているのは、1994(平成6)年6月に開設された「北海道立アイヌ民族文化研究センター」です。この名称のとおり、アイヌ文化を調査・研究し、その成果の普及を図ることを目的とした調査・研究機関として発足しました。アイヌ文化を専門とする初めての公設の研究機関でした。開設から2009(平成21)年3月までは札幌市中央区北2条西7丁目のプレスト1・7ビルに、同月途中から今年3月末までは、同北3条西7丁目の緑苑ビルに入っていました。

設立の背景には、アイヌ民族の伝統的な生活文化を知る古老が年々少くなる一方で、アイヌ文化の調査・研究に総合的・専門的に取り組む機関がほとんど無い、という状況がありました。特に、文化の伝承や理解にとって、生活用具などと並んで大きな位置を占める、〈ことば〉や〈伝承〉については、大学などにごく少数の研究者が在籍しているものの、これを専門的に取り扱う公設の機関は無く、道や市町村教育委員会などが録音・録画してきた貴重な資料の多くが、未整理のまま活用されずにいる、という課題が指摘されていたのです。

従って、北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、アイヌ語や口承文芸、芸能、伝統的な生活技術などの無形の文化と、これらの理解に欠かせないアイヌの歴史について、総合的・体系的な調査研究を行うことを、主な事業としてきました。また、貴重な資料や学習・研究のための情報を収集し整理を進め、これらの成果をひろく提供して

いくことを通して、アイヌ文化の振興に寄与することを、主な責務としてきました。

北海道博物館の中での役割

北海道博物館の中の一組織となったアイヌ民族文化研究センターには、旧北海道開拓記念館においてアイヌの民具を担当してきたスタッフも加わりました。これによって当館は、言語・口承文芸・芸能などの無形の伝承文化と、民具などの有形の資料のそれぞれを専門とするスタッフを有することになりました。

こうして再スタートを切ったアイヌ民族文化研究センターが、これから担っていく役割、進めていく事業には、大きく三つの方向があります。

一つは、これまで北海道立アイヌ民族文化研究センターにおいて進めてきた、アイヌ文化に関する調査・研究や、資料の収集・整理・保存・公開などの事業を、引き続き進めていくことです。さらにこれからは、民具等の資料やこれらに関する研究も合わせることで、より充実させることが重要な課題です。

二つめは、新たに博物館の一員となることで、博物館の展示や教育普及活動などに、アイヌ民族文化研究センターの調査研究や資料収集・整理の成果を反映させ、博物館としてのアイヌの文化や歴史の展示、アイヌ文化に関する事業などを充実させていくことです。

三つめは、当館が北海道の自然・歴史・文化全般に関する総合博物館である点を活かして、アイヌ文化の調査・研究などを、より広い視野でとらえたり、異なる専門分野と共同して進めることより、アイヌ文化の調査・研究等の事業の幅や内容を広げていくことです。

当館が策定を進めてきた基本的運営方針の中でも、「アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な研究組織を有する世界で唯一の総合博物館として、その研究成果を活かし、普及に努め、アイヌ文化の振興に寄与する」ことなどを、基本方針の一つとしているところです。これが、これからの大きな目標であり、使命でもあります。

小川正人

(アイヌ民族文化研究センター長)



北海道立アイヌ民族文化研究センターから当館に移管された資料の一部

昭和初年にアイヌ口承文芸を筆録したノートや、アイヌ語地名を調査した記録をまとめたファイルなどの貴重な資料を、保存用の箱で保管しています。



当研究センター職員が講師を担当したチャレンが子どもクラブ「植物のせんいで、糸を作ろう！編んでみよう！」(8月15日) シナの木の皮の繊維で糸を作り、ひもを編んでみることに挑戦しました。

施設

「はっけん広場」へようこそ



「はっけん広場」は、じっくり観察する、ホンモノにふれる、道具を使う、何かをつくるなどの体験ができる部屋です。広場には、いつでも、だれでも、自由にとりだして使うことができるいろいろな「はっけんキット」が並んでいます。また、期間限定で実施する「はっけんイベント」や学校団体を対象とした「はっけんプログラム」も用意しています。自然の不思議や昔の人の知恵など、それまで知らなかった何かを「発見！」してみませんか。



なにが見えるかな？

はっけんキット

はっけんキットは今のところ約40種類あります。気になったものを選んであれこれ試してみましょう！

何の変哲もない砂も、顕微鏡でのぞいてみると宝石みたいに輝いているかも。アイヌの伝統的な衣服を着てムックリを鳴らしたり、荷物をせおってみたり。ちょっと昔の遊び道具には、けん玉やコマから、すごろくなどのゲームまでそろっています。夢中になるとつい時間を忘れてしまいますので、ご用心！

はっけんイベント

今年度は、秋から「はっけんイベント」がスタートします。

①羊毛ふわふわボールをつくろう！

(2015年9月5日～11月29日の土曜日・日曜日、祝日開館日に開催) カラフルに染めた羊毛を丸めてかわいいボールをつくります。

②しめ縄づくり

(2015年12月1日～12月20日の休館日を除く毎日開催) 稲わらを使ってお正月飾りをつくります。

③雪の結晶のしおりをつくろう！

(2016年1月9日～3月21日の土曜日・日曜日、祝日開館日に開催) 色紙を切り抜いていろいろな雪の結晶の形をした自分だけのしおりをつくります。

はっけんプログラム(学校団体対象)

「はっけんプログラム」は、現在の、以下の5種類を用意しています。所要時間は1クール約20分です。

- ①クマってこわい？ ヒグマについてもっと知ろう
- ②アンモナイトで発見！
- ③やってみよう！ アイヌ文化
- ④縄文文化のくらし
- ⑤くらべてみようーくらしの道具いまむかしー



クマってこわい？ ヒグマについてもっと知ろう

ヒグマについて学ぶプログラムでは、頭骨や毛皮にさわってクマたちのくらしを考えます。縄文の火おこし体験では、木をすりあわせてできた火種を顔を真っ赤にして吹き、もえあがらせませす。みんな煙くさくなるのはご愛敬。

はっけん広場はこれからも、より楽しく、深く学べる場をめざして進化していきますので、どうぞお楽しみに。

表溪太

(学芸部道民サービスグループ学芸員)

はっけんキットのいろいろ



【生き物に関するもの】

- ・毛皮にさわろう① ヒグマ
- ・毛皮にさわろう② エゾシカ
- ・毛皮にさわろう③ アザラシ
- ・ホネにさわろう① ヒグマの頭骨

【地学に関するもの】

- ・北海道の砂を観察する
- ・アンモナイト化石を観察する

【アイヌ文化に関するもの】

- ・ムックリを鳴らす
- ・いろいろな繊維にさわる
- ・着物を着る(小さな着物)
- ・着物を着る(大きな着物)
- ・刺繍を観察する
- ・アイヌ語カルタに挑戦！
- ・アイヌパズルに挑戦！
- ・背負い縄(タラ)で荷物を運ぶ
- ・背負い袋(サラニャ)を背負う
- ・サケ皮靴(模型)を組み立てる
- ・木彫りを観察する

【考古学に関するもの】

- ・縄文人のおしゃれ
- ・土器文様のいろいろ
- ・鹿の角でつくった釣り針

【生活文化に関するもの】

- ・昔の衣服を着る①ー1「冬の女性の装いをしてみよう 角巻 雪げた」
- ・昔の衣服を着る①ー2「冬の女性の装いをしてみよう お高祖ずきん 番傘」
- ・昔の衣服を着る②「お店屋さんになってみよう」
- ・昔の衣服を着る③「漁師さんになってみよう」
- ・昔の衣服を着る④「農家の人になってみよう」
- ・昔の道具ではかる①「秤でお米をはかってみよう」
- ・包んで しぼって①「わで卵を包んでみよう」
- ・包んで しぼって②「経木でアサリを包んでみよう」
- ・包んで しぼって③「風呂敷を使ってみよう」
- ・赤ちゃんのお世話①「おんぶをしてみよう」
- ・赤ちゃんのお世話②「おむつをあててみよう」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう①「あやとり おはじき パッチ」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう②「お手玉 こま わなげ」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう③「竹わり けん玉 だるまおとし」
- ・パズルで脳をきたえよう！「万年ゲーム 清少納言知恵の板 ザイルトリック」
- ・みんなでカードゲームをしよう！「かるた 家族あわせ 鳥さし」
- ・みんなでボードゲームをしよう！「ダイヤモンドゲーム コビットゲーム 十六武蔵」
- ・すごろくで、もりあがろう！「蝦夷土産道中 寿五六 札幌区実業家案内双六」
- ・いろんなくせんい>「この布は何からできていたのかな？」
- ・ヒツジの毛にふれる「ふわふわの毛をとかしてみよう！」

2015年9月1日現在

行事のおしらせ 10月～12月

展示会

北海道博物館開館記念特別展

夷酋列像

蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界

9月5日(土)～11月8日(日)

特別展示室・有料

第3回企画テーマ展

北海道のアンモナイトとその魅力

11月28日(土)～2016年1月17日(日)

特別展示室・無料

写真展

石川直樹写真展 Across Borders (仮題)

11月28日(土)～2016年1月17日(日)

特別展示室・無料

イベント

ちゃれんがワークショップ

アイヌ語「解説」講座

10月3日(土)10:00～12:00

講堂・無料

担当/田村雅史・大谷洋一

対象/大人(100名、事前申込、9月4日(金)から受付)

講演会

武人・画人・詩人 波響

10月4日(日)13:30～15:30

講堂・無料

講師/井上研一郎氏(宮城学院女子大学)

対象/大人(100名、事前申込、9月5日(土)から受付)

シンポジウム

夷酋列像は何をうつすか

10月11日(日)13:00～16:00

講堂・無料

行事の申し込みは、お電話(011-898-0500)でお願いします。
『行事あない2015年度後期』がウェブサイトでご覧いただけます。

パネリスト/五十嵐聡美氏(北海道立帯広美術館)、川上淳氏(札幌大学)、津田命子氏(北海道大学アイヌ・先住民研究センター)、春木晶子
対象/大人(100名、事前申込、9月12日(土)から受付)

ちゃれんがワークショップ

自然観察会⑤ 冬越しする生き物をさがそう

10月24日(土)10:00～12:00

野幌森林公園内(自然ふれあい交流館集合)

担当/濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)、堀繁久・水島未記・表溪太

対象/子ども～大人(40名、事前申込、9月25日(金)から受付)

特別イベント

アイヌ音楽ライブ

11月3日(火・祝)12:00～13:00

記念ホール・無料

演奏/MAREWREW(マレウレウ)

対象/子ども～大人(申込不要)

文化の日講演会

歴史展示と画像資料の利用

11月3日(火・祝)13:30～15:30

講堂・無料

講師/久留島浩氏(国立歴史民俗博物館)

対象/大人(100名、事前申込、10月4日(日)から受付)

ちゃれんがワークショップ

手漉き和紙でオリジナル年賀状をつくろう!

12月6日(日)10:00～12:00

講堂・無料

担当/杉山智昭

対象/子ども～大人(40名、事前申込、11月7日(土)から受付)

ら受付)

ちゃれんが子どもクラブ

アンモナイトを解剖しよう

12月12日(土)10:00～12:00

講堂・無料

担当/圓谷昂史・栗原憲一

対象/子ども・親子(20名、事前申込、11月13日(金)から受付)

ちゃれんがワークショップ

アンモナイト折り紙で学ぶ 生物の「かたち」の不思議

12月13日(日)10:00～12:00

講堂・無料

担当/水島未記・栗原憲一

対象/子ども～大人(40名、事前申込、11月14日(土)から受付)

ちゃれんが講座

アンモナイトとアオイガイ

12月19日(土)13:30～15:30

講堂・無料

担当/栗原憲一・圓谷昂史

対象/子ども～大人(100名、事前申込、11月20日(金)から受付)

ちゃれんがワークショップ

博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり

12月20日(日)10:00～12:00

講堂・無料

担当/水島未記・三浦泰之・春木晶子

対象/子ども～大人(30名、事前申込、11月21日(土)から受付)

活動ダイアリー 4月～7月

4月1日 北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターが統合し「北海道博物館」となる。

4月11日 北海道博物館開館直前企画「館長×学芸員トーク オープン直前! まるごと北海道博物館」を北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎、以下略)で開催。

4月17日 北海道博物館開館記念式典を記念ホールで開催。

4月18日 北海道博物館オープン。第1回企画テーマ展「学芸員おすすめの1点 ようこそ北海道博物館へ」開催(6月7日まで)。カウントダウン・セレモニー、特別イベント「みんなで参加しよう! 入場1万人達成予想」、特別イベント「特別開放! 屋上スカイビュー」、トークイベント「ここが見どころ! 北海道博物館」開催。

4月19日 特別イベント「みんなで参加しよう! 入場1万人達成予想」、特別イベント「特別開放! 屋上スカイビュー」開催。

4月29日 学芸員によるミュージアムトーク、特別イベント「特別開放! 屋上スカイビュー」開催(5月3日～6日も開催)。

5月27日 アルセーニエフ博物館(ウラジオストク)館長来館。

5月30日 赤れんが講座①「館長×学芸員トーク『学芸員おすすめの1点 ようこそ北海道博物館へ』展見どころ紹介」を赤れんが庁舎で開催。

6月7日 ちゃれんがワークショップ「縄文土器をつくる(全2回)」開催(土器づくり:7日、土器やき:21日)。

6月13日 ちゃれんがワークショップ「自然観察会① 落ち葉の下の小さな小

さなカタツムリをさがそう」開催。

6月27日 第2回企画テーマ展「鶴」開催(8月16日まで)。

6月28日 ポーランド Zory 市立博物館館長来館。

7月2日 真狩高等学校インターンシップ1名受入(7月5日まで)。

7月4日 ちゃれんがワークショップ「自然観察会② 水辺の生き物をさがそう」開催。札幌大学博物館見学実習受入(14名)。

7月5日 特別イベント「絵本になった北海道博物館を見てみよう!」開催。

7月11日 特別イベント「北海道の博物館まつり」、フォーラム「北海道博物館と地域の関わりーリニューアルした北海道博物館は高齢社会のなかで何ができるのかー」開催(北海道博物館協会との共催事業)。

7月12日 ちゃれんがワークショップ「石器をつくる」開催。

7月17日 カルチャーナイト2015参加。赤れんが庁舎の出張展示室「北海道の歴史ギャラリー」終了。

7月18日 かるちゃんnet事業「かるちゃんラリー」開催(8月23日まで)。

7月19日 講演会「人と鶴の関わりーの歴史」開催。

7月25日 赤れんが庁舎の出張展示スペース「北海道博物館 赤れんがサテライト」オープン。ちゃれんが子どもクラブ「消しゴムはんこづくり」開催。赤れんが講座②「館長×学芸員トーク「鶴」展見どころ紹介」を赤れんが庁舎で開催。

7月26日 講演会「国立歴史民俗博物館・北海道博物館共同講演会」開催。

人事異動

退職(5月31日付) 副館長:関下祐二/新任(4月1日付) 学芸部博物館基盤グループ兼アイヌ民族文化研究センター研究職員:遠藤志保、学芸部道民サービスグループ兼アイヌ民族文化研究センター研究職員:大坂拓、学芸部道民サービスグループ兼研究部自然研究グループ学芸員:表溪太、学芸部社会貢献グループ兼研究部博物館研究グループ学芸員:栗原憲一/新任(6月1日付) 副館長:吉田公伸/転入(4月1日付) 総務部総括グループ主査:今聡人/転出(5月31日付) 環境生活部文化・スポーツ課主幹(北海道博物館総務部総括グループ配席):川田宣人、総務部総括グループ主査:山口拓磨/再任用(4月1日付) 総務部企画グループ兼研究部博物館研究グループ学芸員:小林孝二、学芸部博物館基盤グループ兼研究部歴史研究グループ学芸員:寺林伸明、学芸部博物館基盤グループ兼研究部博物館研究グループ学芸員:村上孝一、学芸部道民サービスグループ兼アイヌ民族文化研究センター学芸員:出利葉浩司/内部異動(新組織) 本誌4～6ページ掲載

森のちゃれんがニュース 創刊号

発行日:2015年9月1日

編集・発行:北海道博物館

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

Tel. (011) 898-0456 Fax. (011) 898-2657

ウェブサイト <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>

©Hokkaido Museum, 2015